

火災への心構え

火災が起きたら、①通報、②初期消火、③避難の順番で、速やかに行動してください！



！地震時に火を消す3度のチャンス！

①小さな揺れを感じた時

最初の地震はそう強い衝撃ではないはず。「グラッ」ときた時の2、3秒の瞬間を捉えて使用中の火を消す。

②大きな揺れを感じた時

大きな揺れの時は、火を消すことは困難。一度机の下などに身を伏せ、揺れが収まるのを待ってから火を消す。

③出火した時

もし出火しても1～2分程度では燃え広がらない。手近にある消火器で消せるはずだが、天井に火が入るまでが限度なので、早く近所に知らせ燃え広がる前に協力して火を消す。

東京消防庁
ホームページより引用



！火元毎の初期消火方法

油なべ

毛布や大きいタオルをぬらして火の手前からかぶせ空気を遮断する。



石油ストーブ

真上から一気に水をかける。灯油がこぼれて広がったら、毛布などで覆って水をかける。

電気製品

まずコンセントを抜いて感電を防止してから消火する。



カーテン・ふすま

天井に燃え移らないよう、カーテンは引きちぎり、ふすまは蹴り倒して消火する。

本当に怖いのは煙！

煙は有毒ガスを含み、吸うと死につながるほど大変危険。姿勢を低くし、タオルや衣類を口に当て、煙を吸わないように避難しましょう。

！火災からの避難ポイント

- ▶ 天井に火が移った時が避難の目安
- ▶ 避難はお年寄り、子ども、病人を優先する
- ▶ 服装や持ち物にこだわらず、なるべく早く避難する
- ▶ 炎の中を逃げる時は、なるべく姿勢を低くする
- ▶ 一旦逃げ出したら、再び中には戻らない
- ▶ 逃げ遅れた人がいる時は、消防隊にすぐ知らせる

水害への心構え

人によって状況は違うので、避難は自ら判断して適切な行動をとりましょう！



！まずは気象情報

大雨注意報・洪水注意報

大雨や洪水による災害の恐れ（危険）がある場合に注意を呼びかける。警報となる可能性がある場合に注意報の中でその旨を知らせる。

大雨注意報・洪水警報

人命や財産に重大な影響を及ぼす災害の危険がある場合に、警戒を呼びかける。警報本文中に「××では過去数年間で最も危険が高い」とある場合は特に警戒を。



危険を感じたら、すぐに自主避難することね！

！行政からの情報

避難準備情報

事態の推移により避難勧告や避難指示が予想され、避難準備を呼びかける。

避難勧告

居住者に立ち退きを勧め促すもの。

避難指示

被害の危険が切迫した時に発せられ、「勧告」よりも拘束力が強くなる。

最寄りの避難所へ早めに避難しよう！



！洪水からの避難アドバイス

履き物

裸足や長靴は禁物。紐で締められる運動靴で！

歩ける深さ

男性で約70cm、女性で約50cm。腰まである深さでは無理は禁物！

足元に注意

長い棒を杖代わりに、足元の安全を確認して歩く！



互いの体をロープでつなぐ

特に子どもは、はぐれないように結んで！

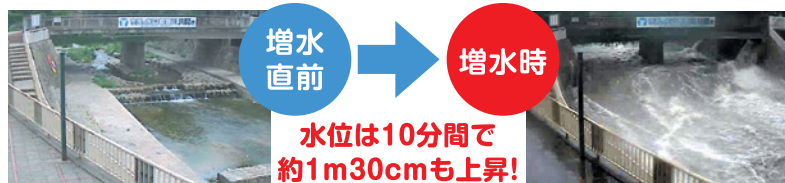
子どもやお年寄りの安全

お年寄りは背負い、幼児は浮き輪、乳児はベビーバスを利用して安全を確保！



局地的大雨(ゲリラ豪雨)への心構え

最新の気象情報を確認するとともに、空や川の変化の様子を観察し、危険を感じたらすぐに避難するようにしましょう！



平成20年7月8日、局地的大雨によって神戸市灘区の都賀川が急激に増水。河川内の親水公園で水遊びをしていた子どもらが流され、5人が亡くなりました。写真提供：神戸市

！局地的大雨(ゲリラ豪雨)から身を守る

短時間で強い雨を降らせる局地的大雨により事故が多く発生しています。

局地的大雨は、積乱雲(雷雲)によって急に強い雨が降り、雨水が低い所へ一気に流れ込むため、総雨量が少なくても、10数分で甚大な被害が発生することがあります。どんな場所でどんな災害が発生するのか、被害をイメージできることが重要です。また、河川の近くに行くときは天気予報などで局地的な雨の心配がないか確認して十分な注意を！

こんな場所にいるときは
注意しましょう！

- 川釣り
- 川原でバーベキュー
- 親水公園で水遊び
- 溪流・河川工事
- アンダーパス
- 地下街・地下ガレージ

！こんな時は、要注意！

- ▶空が真っ黒になり、雷鳴や稲妻を確認した時
- ▶ヒヤッとした冷たい風が吹き出した時
- ▶大粒の雨や雹(ひょう)が降り出した時
- ▶川の水かさが増したり、濁ってきた時
- ▶雨の日より周囲より低い位置にいる時
- ▶避難を呼びかけるサイレンの音が聞こえた時



危険を感じたら、直ちに避難しましょう！

参考文献：
気象庁『局地的大雨から身を守るために』

避難場所と避難経路を確認！

避難場所を確認できたら、本誌裏表紙の『わが家の防災メモ』に書いておきましょう！



！避難場所

一時避難場所

一時的に身を守るために避難する場所
(例) 地域の学校のグラウンド・公園・神社など



広域避難場所

地域全体が危険になった時に避難する場所
(例) 大規模な公園・大学など
10ヘクタール以上の規模



具体的な避難場所は在住する市町村のホームページなどで確認しましょう！

！避難経路

避難経路は大事なポイント！

なぜなら、自宅などから一時避難場所への経路は自身で十分に注意を払う必要があるからです。

頭上からの落下物、ブロック塀の倒壊、水害時は側溝など、危険箇所は回避するよう心掛けましょう。

なお、一時避難場所から広域避難場所への移動は原則的に行政や公安機関が誘導します。



自宅付近の危険箇所をチェックするとともに、避難場所までの安全な経路をマップ化して家族会議で確認しましょう！